



民法

第八

契約篇



414  
A2651  
8



民法第八卷目錄

契約篇五

預ケノ事及ヒ預ケノ種類

通常ノ預ケ

隨意ノ預ケ

預リ主ノ義務

預ケ主ノ義務

己ムヲ得サル預ケ

大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈

大正十一年

大正十一年

雙方相争ノ物ヲ人ニ預クル事

雙方相争ノ物ヲ互ニ契約シテ人ニ預ク

ル事

雙方相争ノ物ヲ裁判所ノ言渡ヲ以テ人

ニ預クル事

偶生ノ事ニ管スル契約

生涯ノ年金ノ契約

名代ノ證書

名代人ノ義務

本人ノ義務

権利者ト保證人トノ間ニ保證ヨリ生ス

ル條件

本人ト保證人トノ間ニ保證ヨリ生スル

條件

保證人數人ノ間ニ保證ヨリ生スル條件

保證ノ義務ノ消散スル事

和解

民法第八卷

契約篇五

預ケノ事及ヒ預ケノ種類

一九一五

第九百三十四條

預ケトハ總テ一方ノ者他ノ一方ノ者ニ物件ヲ預ケ他ノ一方ノ者之ヲ管守シ後ニ其儘ニテ還ス可キ契約ヲ云フ

一九一六

第九百三十五條

預ケニ二種アリ一ハ通常ノ預ケ又一ハ双方相争フ物ヲ人ニ預ケルナ



大政官

通常ノ預ケ

第九百三十六條 通常ノ預ケトハ別段償ヲ用

ヒサル契約ヲ云フ

第九百三十七條 預ケハ動産ノミニ限ル可シ

第九百三十八條 預ケハ物件ヲ現ニ引渡シ及

ヒ引渡シタリト者做ス可キ事アルニ非レハ之ヲ成就シタリトセス

預リ主掌テ物件ヲ預ケニ非サル名義ヲ以テ其所有者ヨリ既ニ已レノ方ニ受取り其所有者其儘之ヲ預ケ置カントスル時ハ其物件ヲ引渡シタリト者做ス可シ

第九百三十九條 預ケハ隨意ノモノアリ已ム

ヲ得サルモノアリ

隨意ノ預ケ

第九百四十條 隨意ノ預ケハ預ケ主ト預リ

主ト双方ノ承諾ノ上書面ヲ以テ之ヲ為ス可  
シ

第九百四十一條 隨意ノ預ケハ物件ノ所有者  
自ラ之ヲ為シ又ハ其者ノ許ヲ受ケテ他人之  
レヲ為ス時ハ法ニ適シタルモノナリトス

第九百四十二條 隨意ノ預ケハ契約ヲ為シ得  
可キ者ノ間ニノミ之ヲ為スヲ得可シ  
然レ契約ヲ為シ得可カラサル者ヨリ預ケテ

承諾シタル時ハ其預リ主通常ノ義務ヲ負フ  
可クシテ其預ケ主ノ後見人又ハ其者ノ財産  
支配人ヨリ訴訟ヲ受クルコトアル可シ

第九百四十三條 契約ヲ為シ得可キ者ヨリ契  
約ヲ為シ得可カラサル者ニ預ケタル時ハ其  
預ケタル物件其預リ主ノ手元ニ現存スル時  
間ニ非レハ其物件ヲ取戻ス可キノ訴訟ヲ為  
スヲ得ス

預り主ノ義務

第九百四十四條 預り主ハ其預リタル物件ヲ  
管守スルニ付キ自己ノ所有スル物件ヲ管守  
スルニ等シキ注意ヲ為ス可シ

第九百四十五條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ規  
則ヲ別段嚴密ニ守ル可シ

第一 預り主ノ方ヨリ預ル可キヲ述ヘ  
タル時

第二 預り主其物件ヲ管守スルニ付キ謝

金ヲ得可キノ契約ヲ為シタル時

第三 預り主ノ利益ノ為メ預リタル時

第四 預り主如何ナル過失アリト雖モ皆  
之レヲ已レニ擔當ス可キヲ持テ

契約シタル時

第九百四十六條 物件預り主ハ如何ナル場合  
タルヲ問ハス抗拒ス可カラサルカアル意外

ノ事ニ因リ其物件ヲ毀損減尽シタル責ニ任  
スルニ及ハス但シ其預リタル物件ヲ還ス可  
キノ求メヲ受ケ猶之ヲ還サル、時間ハ格別  
ナリトス

一九三三

第九百四十七條 預リ主ハ預ケ主ノ許ナクシ  
テ其預リタル物件ヲ使用ス可カラス

一九三一

第九百四十八條 預リシ物件鎖閉シタル箱篋  
中ニ入リタル時又ハ封印ヲ為シタル包皮中

ニ入リタル時ハ其預リ主其物件ノ何物タル  
ヲ知り得ント要ム可カラス

一九三二

第九百四十九條 預リ主ハ其預リシ物件ヲ其  
儘返還ス可シ

故ニ貨幣ヲ預リ主ハ其貨幣ノ價ニ低昂アル  
ヲ問ハス其預リタルト同一ノ貨幣ヲ還ス可  
シ

一九三三

第九百五十條 預リ主ハ其預リシ物件ヲ其



還ス可キ時ノ景況ノ儘之ヲ還スコトヲ得可シ  
 ○其者ノ過失ニ非スシテ其物件ノ卑悪ニ至  
 リシ時ハ預ケ主其損失ヲ已レニ擔當ス可シ  
 第九百五十一條 預リ主ノ家督相續人其預カ  
 リシコトヲ知ラス正実ノ意ヲ以テ其預リシ物  
 件ヲ賣拂フタル時ハ其得タル代金ヲ還ス可  
 シ又其相續人未タ其代金ヲ受取ラサル時ハ  
 買主ニ對シ訴訟ヲ為ス可キノ權ヲ預主ニ讓

レ可シ

第九百五十二條 預リシ物件ヨリ利益ヲ生シ  
 預リ主其利益ヲ已レニ得タル時ハ之ヲ預ケ  
 主ニ還ス可シ○預リ主ハ預リシ金高ノ息銀  
 ヲ拂フニ及ハス但シ其金高ヲ還ス可キノ求  
 ノヲ受ケ猶之ヲ還サ、ル時ハ其求メヲ受ケ  
 シ日ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ  
 第九百五十三條 預リ主ハ其物件ヲ預ケタル

者又ハ其真ノ所有者又ハ其物件ヲ受取ル為  
ノ預ケ主ノ別段定メ置キタル者ニ之ヲ還ス  
可シ

第九百五十四條

預リ主ハ預ケ主其物件ノ所  
有者タルノ證ヲ必ス得ント要ムルヲ得ス  
若シ必ス其證ヲ得ント欲セハ物件ノ預ケヲ  
承引スル前ニ之ヲ要ム可シ

然レ其物件贓物ニシテ其預リ主別ニ其真ノ

所有者ヲ見出シタル時ハ其物件ヲ預カリシ  
旨ヲ真ノ所有者ニ告知且相當ノ期限ヲ定メ  
其者ヨリ預ケ主ニ謀リ其物件ヲ引取ル可キ  
トヲ言送ル可シ若シ其定期内ニ其物件ノ引  
渡ヲ求ムルトナキ時ハ預リ主ヨリ其預ケ主  
ニ其物件ヲ還シテ義務ノ解除ヲ受ク可シ

第九百五十五條

預ケ主ノ死去又ハ終身懲役  
トナルシ時ハ其預カリシ物件ヲ其家督相続

人ニ還ス可シ

第九百五十六條 嘗テ物件ヲ預ケシ者ノ身上ノ  
 變シタル時摩ヘハ預ケシ時未タ婚姻セサル  
 婦其後ニ至リ婚姻ヲ結ビタルニ因リ其夫  
 ノ權ニ從フ可キ者トナリタル時又ハ預ケ主  
 後ニ治産ノ禁ヲ受ケタル時及ビ其他此類ノ  
 場合ニ於テハ其預リ主此等ノ者ノ財産ヲ支  
 配シ且其權利ヲ扱フ者 夫又ハ後見人等ヲ云フニ其預カ

リシ物件ヲ還ス可シ

第九百五十七條 後見人又ハ夫又ハ支配人タル  
 ノ名義ヲ以テ人ニ物件ヲ預ケタルニ於テハ  
 ハ其支配ヲ為ス可キ權ノ終リシ時其預リ主  
 其物件ヲ其所有者ニ還ス可シ

第九百五十八條 預ケノ契約書ニ其預ケシ物  
 件ヲ還ス可キ地ヲ定メタル時ハ預リ主之ヲ  
 還サントスル時其地ニ移送ス可シ但シ其移

送ヲ為スニ付キ銀ヲ出シタル時ハ預ケ主  
之ヲ償フ可シ

第九百五十九條 又其契約ニ其物件ヲ還ス可  
キ地ヲ定メサル時ハ當テ預ケタル地ニテ之  
ヲ還ス可シ

第九百六十條 預ケノ契約ニ其預ケシ物件  
ヲ還スニ付キ定メタル猶豫ノ期限アル時ト  
雖モ其預ケ主ヨリ其物件ノ取戻ヤント求ム

ル時ハ其預リ主直ニ之ヲ還ス可シ但シ預  
ケ主ノ債主其預リ主ニ其還方ヲ差留ル書面  
ヲ送リタル時ハ格別ナリトス

第九百六十一條 預リ主ニ不正ノ所為アリテ  
其物件ヲ還サシムル時ハ其者自己ノ財産ヲ抛  
棄シテ其責ニ任スヘシ

原第百六十五條及之訴  
訟法第百九十八條見合

第九百六十二條 預リ主自カラ其預リシ物件  
ノ所有者タルヲ見出シテ其證ヲ立ル時ハ

其預リノ義務消盡ス可シ

預ケ主ノ義務

一九四七

第九百六十三條 預ケ主ハ預リ主物件ヲ保全

スルニ付キ出シタル費用且其預ケニ因リ生

シタル損失ヲ償フ可シ

一九四八

第九百六十四條 預リ主其預リニ付キ預ケ主

ヨリ得可キ償額ヲ全部ヲ受取ルニ至ル迄ハ

其預リシ物件ヲ已レノ方ニ留メ置クヲ得

可シ

已トテ得サル預ケ

一九四九

第九百六十五條 已トテ得サル預ケトハ火災

崩潰掠奪破船及ヒ其他意外ノ事ニ因リ已ム

ヲ得スシテ人ニ物ヲ預ケルヲ云フ

一九五

第九百六十六條 已ムヲ得サル預ニ付テハ證

人ヲ以テ證ヲ立ルヲ得可シ

一九五二

第九百六十七條 旅舎ノ主人ハ其家ニ宿スル

旅客ノ携へ来リシ物件ニ付キ其預リ主トシ  
テ其物件ヲ管守ス可キ責ニ任ス可シ但シ此  
類ノ預ケハ己ムヲ得サルノ預ケナリト看做  
ス可シ

第九百六十八條 旅舎ノ主人ハ雇人又ハ其家  
ニ出入スル者旅客ノ物件ヲ竊取シ又ハ其物  
件ニ損害ヲ加ヘタル時自カラ其責ニ任ス可  
シ

第九百六十九條 旅舎ノ主人兵器ヲ携へタル  
賊ノ為ノ強迫ヲ受ケ又ハ其他抗拒ス可カラ  
サルカノ為ノ旅客ノ物件ヲ奪ハレシ時ハ其  
責ニ任スルヲナカル可シ

双方相争ヲ物ヲ人ニ預クル事

第九百七十條 双方相争ヲ物ヲ人ニ預ケル  
事ハ契約ヲ以テ為スモノアリ又ハ裁判所ノ  
言渡ヲ以テ為スモノアリ

双方相争ノ物ヲ互ニ契約シテ人ニ預ク  
ル事

一九五六

第九百七十一條 双方相争フ物ヲ互ニ契約シ

テ人ニ預クルトハ二人又ハ数人互ニ相争フ

物ヲ他人ニ預ケ其預リ主其争ノ裁判アリシ

時其物ヲ得可キノ言渡ヲ得タル者ニ之ヲ還

ス可キノ契約ヲ云フ

一九五七

第九百七十二條 此類ノ預ケニ付テハ其預リ

主其償ヲ受ケルヲ得可シ

一九五八

第九百七十三條 此預ケニ付キ其預リ主償ヲ

得サル時ハ後條ニ記スル所ノ諸件ヲ除クノ

外總テ通常ノ預ケノ規則ニ循フ可シ

一九五九

第九百七十四條 此類ノ預ケハ動産ノミニ限

ルヲナク不動産ニ付テモ亦之ヲ為スヲ得

可シ

一九六〇

第九百七十五條 此類ノ預リ主ハ其争ニ管シ

タル各人ノ承諾ヲ得サル時又ハ裁判所ノ言  
渡シアリシ時ノ外其義務ノ解除ヲ得可カラ  
ス

双方相争フ物ヲ裁判所ノ言渡ヲ以テ人  
ニ預クル事

第九百七十六條 左ノ物件ハ裁判所ヨリ人ニ  
預ケ可キヲ言渡スヲ得可シ

第一 負債者其義務ヲ行ハサルニ因リ債

主ノ差押ヘタル動産

第二 二人以上ノ者互ニ所有ノ権又ハ占

有ノ権ヲ相争フ不動産又ハ動産

第三 負債者其義務ノ解除ヲ得シカ為メ

債主ニ渡サント持参スル物件

第九百七十七條 負債者其義務ヲ行ハサルニ

因リ裁判所ノ言渡ヲ以テ其財産ヲ差押ヘ其  
物件ヲ他人ニ預ケタル時ハ其物件ヲ差押ヘ



タル債主ト其預リ主トノ間ニ互ニ左ノ義務ヲ生ス可シ

其預リ主ハ其預リタル物件ヲ保全スルニ付キ懇切ニ注意ス可シ

其預リ主ハ債主具物件ヲ賣拂ハントスル時其受取書ヲ得テ之ヲ引渡シ又債主負債者ノ

財産差押ヲ免ルシタル時ハ負債者ニ之ヲ引渡ス可シ

又其債主其預リ主ニ法律上ニ定メタル謝金ヲ與フ可シ

第九百七十八條 此類ノ預ケハ訴訟ニ管シタ

ル数人ノ互ニ協議シテ定メタル者又ハ裁判役ノ特ニ定メタル者ニ之ヲ為ス可シ

此二箇中何レノ場合ニ於テモ其預リ主ハ双方相争フ物ノ契約上ノ預リ主ニ等シキ義務

ヲ負フ可シ

偶生ノ事ニ管スル契約

第九百七十九條 偶生ノ事ニ管スル契約トハ

其契約ニ管シタル各人又ハ其中ノ一人又ハ

数人ノ未定ノ事ニ管セシムル利益或ハ損失

ノ契約ヲ云フ 第十百四  
條見合

此類ノ契約ハ海上請合及ヒ火災請合ノ契約

商法第三百三十二  
條以下ニ詳ナリ

船舶又ハ積荷ヲ引當トシテ金高ヲ貸ス契約

商法第二百一十一條  
以下ニ詳ナリ

生涯ノ年金 第九百  
九條見合ノ契約

前ノ二項ニ記スル所ハ商法ヲ以テ之ヲ規定

ス

生涯ノ年金ノ契約

第九百八十條 生涯ノ年金ハ金高又ハ價ヲ

算計スルヲ得可キ動産又ハ不動産ヲ得テ

其償ノ為メ之ヲ與フルヲ得可シ但シ此種

類ノ年金ヲ名ケテ元償ノ年金ト云フ

第九百八十一條 又即時ノ贈遺又ハ遺言ノ贈

遺ニ因リ償ニ非スシテ生涯ノ年金ノ與フル

ヲ得可シ但シ此種類ノ年金ヲ名ケテ不允

償ノ年金ト云フ

總テ年金ニ付テハ契約ハ證書ヲ記ス可シ

第九百八十二條 前條ノ場合ニ於テ其年金ノ

高贈遺ト為スヲ得可キ財産ノ定分ニ過キタ

ル時ハ之ヲ減ス可シ原第九百十七條見合又贈遺ヲ受

クルヲ能ハサル者ノ為メ其年金ヲ贈與シタ

ル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百八十三條 生涯ノ年金ハ元資ヲ出シタ

ル者ノ生涯之ヲ拂フヲ得ヘシ

第九百八十四條 生涯ノ年金ハ一人又ハ数人

ノ生涯之ヲ拂フヲ得可シ

第九百八十五條 甲ヨリ元資ヲ出シタルト雖

此場合ニ於テハ其年金ニ贈遺ノ景状アリト

雖モ其贈遺ノ證書ヲ用ユルニ及ハス但シ其

年金ノ高ヲ減スル場合又ハ年金ノ契約ノ効

ナキ場合ハ第九百七十條ニ記スル所ニ等

シトス

一九七四

第九百八十六條 甲ノ生涯乙ヨリ丙ニ年金ヲ

與フ可キノ契約ヲ結ビシ時甲既ニ死去シタ

ルニ於テハ其契約ノ効ナカル可シ

一九七五

第九百八十七條 前條ノ場合ニ於テ既ニ病ニ

罹ルト雖モ其契約ノ時ヨリ二十日内ニ死セ

サル時ハ其効ナリトス

一九七六

第九百八十八條 生涯ノ年金ノ高ハ契約ヲ為

ス双方ノ隨意ニ之ヲ定ムルヲ得可シ

一九七七

第九百八十九條 元資ヲ出シテ生涯ノ年金ヲ

得可キ者ハ之ヲ拂フ可キ者ヨリ其契約ノ如

大文

ノ執行ノニ付テ、保證人ヲ立テサル時其契  
約ヲ廢棄セント訴フルヲ得可シ

一九七八

第九百九十条 定期毎ニ拂フ可キ年金ノ高

ヲ拂フヲ怠リシノミニテハ其年金ヲ得可  
キ者ヨリ元金又ハ動産或ハ不動産ノ取戻ヲ  
求ムルヲ得ス唯其年金ヲ拂フ可キ者ノ財  
産ヲ差押ヘテ之ヲ賣拂ヒ其賣拂ニ因リ得タ  
ル代金中ヨリ年金ノ高ニ至ル迄ノ金高ヲ已

レニ得可キノ裁判言渡ヲ得又ハ年金ヲ拂フ  
可キ者ヲシテ其旨ヲ承諾セシムルヲ得可  
シ

一九七九

第九百九十一条 年金ヲ拂フ可キ者ハ其元資

ヲ還シ且其既ニ拂フトル年金ヲ取戻サレ旨  
ヲ申述ラルト雖モ年金ヲ拂フ可キノ義務ヲ  
免カル、ヲ得ス但シ其者ハ年金ヲ得可キ  
一人又ハ数人ノ余数ノ如何ニ長キヲ問ハス

大文

且之ヲ拂フヲ自己ノ為ノ如何ニ困難ナルヲ  
問ハス其一人又ハ数人ノ生涯必ス其年金ヲ  
拂フ可シ

第九百九十二條 生涯ノ年金ハ之ヲ得可キ者

ノ生存シタル日数ノ割合ヲ以テ之ヲ拂フ可

シ

然レ其年金ヲ月割年割等ニテ前拂ヒ為ス可

キノ契約アル時ハ定期前ニ死去スト雖レ前

拂セシ金高ハ其死者所得ト為ス可シ

第九百九十三條 不充償ノ年金ヲ除クノ外總

テノ年金ヲ得可キ者其債主ノ為メ其年金ノ

拂方差留ヲ受クルトナカル可キ者ヲ預メ定

メ置クトヲ得ス但不充償ノ年金ハ此例ニ非

ス

第九百九十四條 生涯ノ年金ハ之ヲ得可キ者

ノ死去ヲ除クノ外消盡スルトナカルヘシ

一九八三

第九百九十五條 生涯ノ年金ヲ得ントスル甲者ハ之ヲ拂フ可キ乙者ニ對シ自己ノ生存スル證ヲ立ルヲ要ス又丙者ノ生涯乙者ヨリ甲者ニ年金ヲ拂フ可キ契約アル時ハ甲者丙者ノ生存スル證ヲ立ルヲ要ス

名代ノ證書

一九八四

第九百九十六條 名代ノ證書トハ一方ヨリ他一方ニ已レノ名義ヲ以テ事ヲ為ス可キノ權ヲ授クル證書ヲ云フ

其契約ハ名代人ノ承諾アル上ニ非サレハ之ヲ為ス可カラズ

一九八五

第九百九十七條 名代人ヲ任スルハ總テ證書ヲ以テ之ヲ為スヘシ

一九八六

第九百九十八條 名代ヲ任スルニ付テノ謝金ハ双方ノ契約ニ因ルヘシ

一九八七

第九百九十九條 名代ヲ任スルハ本人ノ持

定メタル一箇ノ事務又ハ教箇ノ事務ニ管  
シタルコトアリ又ハ總テ本人ノ諸般ノ事務ニ  
管シタルコトアリ

第一千條

名代人ハ其名代ノ證書ニ記  
載シタルヨリ以外ノ事ヲ為ス可カラス

第一千一條

婦人ト雖氏夫ノ承諾ヲ得シ  
工ハ名代人トナルヲ得ヘシ

名代人ノ義務

第一千二條

名代人ハ其任ヲ受ケタル時  
間名代ノ事務ヲ執行ヲ可シ若シ之ヲ行ハサ  
ルニ因リ本人ノ為メ損失ヲ生シタル時ハ之  
ヲ償フ可シ

本人死去ノ時名代人既ニ為シ始メタル事  
アリテ之ヲ停止スレハ後ニ其事ヲ為スノ故障  
トナル可キ恐ナル時ハ名代人其事ヲ成就ス

可シ



第一千三條 名代人ハ已レノ為ス所ノ詐

偽ノ責ニ任ス可キノミニ非ス已レノ過失ノ責ニモ亦任ス可シ

謝金ヲ受ケサル名代人已レノ過失ニ任スルノ責ハ謝金ヲ受クル名代人ヨリ更ニ輕シトス

第一千四條 名代人ハ總テ已レノ行フタ

ル所ヲ本人ニ算計シ且其本人ノ為メ受取リ

タル諸件ヲ本人ニ渡ス可シ但シ本人ノ得可キ權ヲテサル物件ヲ名代人ノ受取リタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第一千五條 名代人已レニ代テ事ヲ為ス

可キ者ヲ任スルノ權ヲ本人ヨリ受ケサル時又ハ本人ヨリ其權ヲ受ルト雖モ本人其者ヲ撰ムトナクシテ名代人ノ撰ミタル者極メテ其職分ニ堪ヘス又ハ家資分散ヲ為シタル時

名代人其己レニ代テ事ヲ為シタル者ノ為  
ノ本人ノ受ケタル損失ノ償ヲ擔當スヘシ  
第一千六 條 名代人本人ノ金高ヲ自己ノ  
用ニ供シタル時ハ其時ヨリ以來ノ息銀ヲ拂  
フ可シ又本人ニ渡ス可キ金高アリテ之ヲ渡  
ス可キノ求メラ受ケ猶之ヲ渡サハル時ハ其  
時ヨリ以來ノ息銀ヲ拂フ可シ

第一千七 條

名代人己レト契約ヲ結ハシ

ト為ス者ニ自己ノ任ヲ受ケタル權利ノ定銀  
ヲ明カニ告知セシ上其者名代人ノ權利外ノ  
事ニ付キ契約ヲ結ビタル時ハ後ニ名代人其  
契約ノ如ク行フヲ得スト雖モ其者名代人  
ヲシテ其責ニ任セシムルヲ得ス但シ名代  
人其責ニ任ス可キヲ別段定メ置タル時ハ  
格別ナリトス

本人ノ義務

第一千八百八

條

本人ハ其名代人ニ授ケタル  
權利ニ因リ名代人ノ他人ト契約シタル義務  
ヲ自ラ執行フ可シ

名代人其本人ヨリ受ケタル權利外ニ於テ為  
シタルハ本人之ヲ許シタル時ノ外  
其事ヲ擔當スルニ及ハス

第一千九

條

名代人本人ヨリ任ヲ受ケタ  
ル事務ヲ行フニ付キ為シタル所ハ拂高及ビ

第一千十

條

又名代人其任セラレタル事  
ハサルヲ得ス

費用ハ本人ヨリ之ヲ名代人ニ償フ可ク又本  
人ヨリ名代人ニ謝金ヲ與フ可キノ約束アル  
時ハ之ヲ與フ可シ

名代人ニ過失アラサル時ハ縱令名代人ノ任  
ヲ受ケシ事務ノ成就セサル時ト雖モ前ニ記  
シタル拂高ト費用トヲ本人ヨリ名代人ニ償  
ハサルヲ得ス

務ヲ行フニ付キ其過失ニ非スシテ損失ヲ受  
ケタル時ハ本人ヨリ之ヲ償フ可シ

第一千一條

名代人本人ヨリ任ヲ受ケタ

ル事務ヲ行フニ付キ為シタル拂高ノ息銀ハ  
其拂方ヲ為シタルノ證アル日ヨリ以來本人  
之ヲ償フ可シ

第一千二條

一箇ノ事務ニ付キ本人數人

ニテ名代人一人ヲ任シタル時ハ其本人數人

ニテ其名代人ニ對シ連帶シテ義務ヲ負フ可  
シ

名代ノ任ノ終ル事

第一千三條

名代ノ任ハ左ノ諸件ニ因リ

終ル可シ

名代人ヲ退クル事

名代人自カラ其任ヲ退ク事

本人又ハ名代人ノ死去終身懲役治産ノ禁家

大政官

資分散

二四

第一千十四條 本人ハ已レノ意ニ隨ヒ其名  
代人ヲ退クルト得可シ但シ渡シ置キタル  
證書ハ之ヲ取還スヘシ

二五

第一千十五條 本人ヨリ名代人ニ其任ヲ退  
クル旨ヲ告知シタルト雖モ他人其旨ヲ知ラ  
スシテ名代人ト契約ヲ結ビタル時ハ本人其  
契約ノ執行ヲ擔當ス可シ但シ本人ハ此事ニ

二六

付キ名代人ニ對シテ訴訟ヲ為スヲ得可シ

第一千十六條 從來ノ名代人ニ委任セシ事

務ニ付キ更ニ他ノ名代人ヲ任シタル時ハ從  
來ノ名代人ニ其旨ヲ告知シタル日ヨリ從來  
ノ名代人ヲ退ケタルト者做ス可シ

二七

第一千十七條 名代人ハ其任ヲ退カント欲  
スルトヲ本人ニ告知シテ其任ヲ退クト得  
可シ然モ名代人其任ヲ退クニ因リ本人ノ為

大政官

ノニ損失ヲ生スル時ハ名代人其損失ヲ償フ可シ

第一千十八條 若シ名代人本人ノ死去又ハ其他自己ノ任ノ終ル可キ原由ヲ知ラスシテ他人ト契約ヲ為シタル時ハ其契約ノ効アリトス

第一千十九條 前條ノ場合ニ於テ他人正実ノ意ヲ以テ其名代人ト結ビタル契約ハ本人

ノ方ニテ之ヲ執行フ可シ

第一千二十條 名代人ノ死去等ノ事故アル時ハ其家督相続人ヨリ其由ヲ本人ニ告知シ本人ヨリ其答詞ヲ得ルニ至ル迄ハ本人ノ為メノ必要ナル諸事ヲ執行フ可シ

保證人ノ本義

第一千二十一條 總テ保證人ハ本人其義務ヲ行ハサル時權利者ニ對シテ其義務ヲ行フ可

シ

第十二條 契約ノ義務ノ効ナキ時ハ亦

其保證ノ効ナカル可シ

然レ本人ノ幼者タル事等ノ如ク總ラ本人ノ

一身ニ管シタル原由ニ因リ其契約ノ義務ヲ

取消シ得可キ時ト雖モ其保證ハ効アリトス

ハシ

第十三條 保證人ノ擔當ス可キ義務ノ

高ハ主タル義務ノ高ニ過ク可カラス又保證

人ハ本人ヨリ更ニ重劇ナル義務ヲ契約ス可

カラス

保證ハ主タル義務ノ一部ノミニ付キ之ヲ為

スヲ得可シ

第十四條 別段本人ヨリノ頼ナクシテ

其保證人トナルヲ得又ハ本人ノ知ルヲナ

クシテ其保證人トナルヲ得可シ

主タル義務ノ保證人トナル可キノミニ非ス  
亦保證人ノ保證人トナルヲ得可シ

二  
十五

第一千二十五條 保證ヲ事ハ必ス之ヲ契約書ニ  
記ス可シ但シ其保證ノ義務ハ其契約書ニ  
記シタル定限ニ過ク可カラス

二  
十六

第一千二十六條 保證ニ付キ別段定限ヲ立テ  
サル時ハ主タル義務ニ附帯シタル諸件及ヒ  
權利者先ツ其義務者ニ對シ為シタル訴訟ノ

費用並ニ其訴訟ヲ為セシ由ヲ保證人ニ告知  
シタル後ノ訴訟ノ費用ニ至ル迄皆保證人ノ  
擔當ス可キ所ナリトス

二  
十七

第一千二十七條 不動産ヲ書入レシ保證人ノ  
義務ハ其家督相續人ニ之ヲ傳フ可シ

二  
十八

第一千二十八條 保證人ハ契約ヲ結ビ得可キ  
ノ權利ヲ有シ且其義務ノ保證ヲ為スニ十分  
ナル財産ヲ所有スル者タル可シ但シ其保證



人トナル可キ者ノ住所ハ其保證ノ契約ヲ為  
ス地ノ裁判所ノ管轄内ニアルヲ必要トス  
第十二十九條 商業ノ事務ニ管シタル時又  
ハ義務ノ高極ノラ少ナキ時ノ外保證人其義  
務ヲ行ヒ得可キ能力ハ其所有タル不動産ヲ  
以テ之ヲ計ル可シ

又保證人ノ不動産所有ノ權ニ付キ訴訟アル  
時又ハ不動産遠地ニ在テ權利者ヨリ之ヲ得

ト求ムルニ差支アル時ハ其保證人ノ義務  
ヲ行ヒ得可キ能力ヲ計ルニ付キ此等ノ不動  
産ヲ算入ス可カラス

第三十條

若シ權利者自己ノ意ニ因リ

又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ義務者ノ立テタル保證人承  
諾シ後ニ其保證人已レノ義務ヲ行フヲ能ハサルニ至リ  
シ時ハ義務者更ニ他ノ保證人ヲ立ツ可シ  
然レ權利者ト義務者トノ契約ニ因リ其權利

者義務ノ保證人ヲ持ニ撰ニタル時ハ其保證  
人後ニ其保證ノ義務ヲ行フヲ能ハサルニ至ルヲア  
ルニ於テモ更ニ保證人ヲ立ルニ及ハス

權利者ト保證人トノ間ニ保證ヨリ生ス  
ル條件

第一千三十一條 保證人ハ權利者ニ其義務者  
ノ財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テシム  
可キヲ陳述シ其本人猶其義務ヲ行ハサル

時ハ自カラ義務ヲ行フヘシ然レ保證人本人  
ニ拘ハラズ其義務ヲ行フヘキ旨ヲ契約シタ  
ル時又ハ義務者ト連帯シテ其義務ヲ行フ可  
キヲ契約シタル時ハ格別ナリト人担シ其  
義務者ト保證人ト連帯シテ其義務ヲ行フ可  
キヲ契約シタル時ハ連帯シタル義務ニ付  
キ定メタル規則ニ循フ可シ

第一千三十二條 權利者ヨリ保證人ニ對シ其

第一千二百  
條見合

大文

義務ヲ得ント求メ其保證人其義務者ノ財産  
ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テシム可キ  
ヲ陳述シタル時ハ權利者其義務ヲ得ルニ充  
テ用フルコトヲ得ヘシ

二二三  
第一千三十三條 保證人權利者ニ其義務者ノ  
財産ヲ以テ先ツ其義務ヲ得ルニ充テ用フ可  
キコトヲ求ムルニハ其權利者ニ其義務者ノ財  
産ヲ指示シ且其財産ヲ以テ其義務ヲ得ルニ

充テシムル手續ヲ為スニ十分ナル費用ノ金  
高ク權利者ニ豫メ渡シ置ク可シ  
保證人ハ其義務者ノ義務ヲ尽クス可キ他ノ  
裁判所ノ管轄外ニアル財産ヲ指示ス可カラ  
ス又其裁判所ノ管轄内ニアル義務者ノ財産  
ト雖氏他人ヨリ之ヲ得ルノ權アルコトヲ訴出  
シタル財産又ハ書入質ト為シタル財産ヲ指  
示ス可カラス

第一千三十四條 保證人前條ノ規則ニ循ヒ其  
 指示スルコトヲ得可キ義務者ノ財産ヲ指示シ  
 且其財産ヲ以テ義務ヲ得ルニ充テシムル手  
 續ヲ為スニ足ル可キ費用ノ金高ヲ權利者ニ  
 渡シタル時其權利者義務者ノ財産ヲ以テ其  
 義務ヲ得ルニ充ツ可キ手續ヲ為スニ怠リ其  
 義務者終ニ其義務ヲ行フヲ能ハサルニ至ル  
 事アルニ於テハ其保證人權利者ニ指示シテ

ル義務者ノ財産ノ高ニ至ル迄其保證ノ義務  
 ヲ免カル可シ

第一千三十五條 一箇ノ義務ニ付キ其義  
 務者ノ為テ保證人数人アル時ハ其各  
 保證人其義務ノ總高ヲ擔當ス可シ然レ  
 其各保證人ハ權利者ノ其義務ヲ各自  
 ニ分派ス可キコトヲ權利者ニ對シ求ムル  
 コトヲ得可シ

大正官  
保證人中ノ一人裁判所ヨリ其義務ヲ分チ行  
フ可キノ言渡ヲ得タル時ニ當リ其保證人中  
ニ其義務ヲ行フヲ能ハサル者アルニ於テハ  
其言渡ヲ得タル保證人他ノ保證人ト共ニ其  
義務ヲ行フヲ能ハサル者ノ部分ヲ擔當ス可  
シ然レ既ニ其義務ノ分派ヲ為シタル後ハ其  
保證人中ニ其義務ヲ行フヲ能ハサルニ至リ  
シ者アリト雖レ他ノ保證人其者ノ部分ヲ擔

當スルニ及ハス

第三十六條 權利者自己ノ意ヲ以テ其得  
可キ義務ヲ分ツト承諾シタル時ハ縱令其  
保證人中ノ一人其義務ヲ行フヲ能ハサル者  
アリト雖レ其義務ヲ分チタルヲ取消スヲ  
得ス

義務者ト保證人トノ間ニ保證ヨリ生スル  
條件

第一千三十七條 義務者其保證人アルヲ知  
ルト知ラサルナラハス保證人其義務者ノ  
為ノ義務ヲ行フタル時ハ其者ニ對シテ訴ヲ  
為スノ權アリ

其訴訟ハ元銀及ヒ息銀ト費用トノ償還ヲ得  
シカ為ノ之ヲ為スヘシ然ル其保證人ハ權利者ヨリ訴  
訟ヲ受ケシニ付其義務者ニ告知スルナラ  
シテ出シタル費用ノ償還ヲ其者ヨリ得ント

訴フ可カラス

又保證人損失ヲ受ケタル時ハ其償ヲ求ムル  
ノ訴訟ヲ為スヲ得可シ

第一千三十八條 義務者ノ為ノ義務ヲ行フタ  
ル保證人ハ權利者ヨリ其義務者ニ對シテ行  
フ可キ權利ニ代ル可シ

第一千三十九條 一箇ノ義務ニ付キ連帶シテ  
之ヲ行フ可キ義務者數人アリテ其保證人一人

ナル時保證人其義務ヲ行フタルニ於テハ其  
義務ヲ行フ可キ各義務者ニ對シ其既ニ行フ  
タル義務ノ總高ノ償還ヲ得ント訴フルヲ  
得可シ

第二百四十一條 保證人義務者ニ告知セスシ  
テ其本人ノ為メ義務ヲ行ヒ其者後ニ重複シ  
テ其義務ヲ行フタル時ハ其保證人ヨリ其者  
ニ對シテ償還ノ訴訟ヲ為スヲ得ス唯其權

利者ニ對シ取戻ノ訴訟ヲ為スヲ得可シ  
又保證人權利者ヨリ訴訟ヲ受クルヲナク且  
義務者ニ告知スルヲナクシテ其義務ヲ行フ  
タル時ニ當リ其義務者已レノ義務ノ既ニ消  
散シタル旨ヲ證シ得キナルニ於テハ其  
保證人義務者ニ對シ償還ヲ求ムルノ訴訟ヲ  
為ス可カラス唯權利者ニ對シ取戻ノ訴訟ヲ  
為スヲ得可シ

第十四十一條 保證人ハ其義務者ノ為メ義務ヲ行ハサル前ト雖モ左ノ場合ニ於テハ其義務ノ解除又ハ豫メ其義務ノ償還ヲ得可キ為メ義務者ニ對シテ訴訟ヲ為スヲ得可シ

第一 保證人權利者ヨリ義務ヲ行フ可キノ詐ヲ受ケタル時

第二 義務者家資分散ヲ為シ又ハ産業ノ衰敗シタル時

第三 義務者其保證人ニ保證ノ義務ヲ解除ス可キ定期ノ契約ヲ為シ其期限ニ至リシ時

第四 義務ノ契約ヲ為シタル定期ノ終ルニ因リ其義務ヲ行フ可キニ至リシ時

第五 義務ヲ行フ可キ期限ヲ契約セサル時ハ其義務ノ生シタルヨリ十年ニ



至リシ時

保證人数人ノ間ニ保證ヨリ生スル條件

第十四十二條 一箇ノ義務者一人ニシテ其

保證人数人アル時ハ其義務者ノ為メニ義務

ヲ行フタル保證人他ノ保證人ニ對シ其各自

ノ部分ノ償還ヲ得ントスル訴訟ヲ為スヲヲ

得可シ然レ其訴訟ハ前條ニ記シタル場合中

ノ一ニ於テ其義務ヲ行フタル時之ヲ為スヘ

二三三

保證ノ義務ノ消散スル事

第十四十三條 保證ノ義務ハ他ノ義務ト同

一ノ原因ニ因リ消散ス可シ

第十四十四條 義務者其保證人ノ家督相続

人トナリ又ハ保證人其義務者ノ家督相続人

トナリテ其双方ノ身分相渾同スル時ト雖

保證人ノ保證人アルハ權利者其者ニ對シ

二三四

二三五

訴訟ヲ為スノ權ヲ失フコトナカル可シ

第四十五條

義務者其義務ノ本義ニ因リ

之ヲ行フコトヲ拒ム可キノ權アル時ハ其保證人モ亦其權ヲ以テ權利者ノ求メテ拒ムコトヲ得可シ千二百八

然レ義務者ノ一身ノミニ其抵拒ノ權アル時

ハ其保證人其權ヲ以テ權利者ノ求メテ拒ム

可カラズ二千十二

第四十六條

權利者其義務ヲ得ルニ充ル

為メ不動産又ハ動産ヲ自己ノ意ヲ以テ受取

リシ時ハ其者後ニ正當ノ所有者ヨリ訴訟ヲ

受ケテ其動産又ハ不動産ヲ奪ハルコトアリ

ト雖レ保證人ハ其義務ノ解除ヲ得可シ

第四十七條

權利者ヨリ義務者ニ其義務

ヲ行フ可キ期限ノ猶豫ヲ許シタルノミニテ

ハ保證人其義務ノ解除ヲ得可カラズ但シ其

保證人ハ義務者ヲシテ其義務ヲ行ハシム可  
キ為メノ訴ヲ為スヲ得可シ

和解

第四百十八條 和解トハ雙方ノ間ニ既ニ生

シタル争ヲ了シ又ハ生セントスル争ヲ豫メ

防ク契約ヲ云フ

此契約ハ必ス之ヲ書面ニ記ス可シ

第四百十九條 和解ヲ為サントスルニハ其

和解ニ管シタル物件ヲ己レノ隨意ニ取扱フ  
ノ權ヲ有スルヲ必要トス

部曲及ヒ公ケノ建造物ノ支配人ハ其建造物

ニ管シタルヲニ付キテハ官許ヲ得タル上ニ

非サレハ和解ヲ為スヲ得ス

第四百五十條 罪犯ヨリ生シタル損害ノ償

ヲ求ムルニ付テハ和解ヲ為スヲ得可シト

雖氏檢部ヨリ其犯人ノ罪ヲ訴フルノ妨トナ

ルヲナカル可シ

二四七

第千五十一條 和解ノ契約ヲ為シタル雙方

ノ中其契約ノ如ク行ハサル者アル時ハ其者  
ヲシテ其償ヲ出サシム可キノ契約ヲ和解ノ  
契約ニ附加スルヲ得可シ

二四八

第千五十二條 和解ノ契約ハ其目的ト為ス

所ノ事ニ限ル可シ

二五一

第千五十三條 同一ノ事務ニ管シタル数人

中ノ一人和解ヲ為シタルト雖モ其他ノ者ハ  
其和解ノ契約ヲ遵守スルニ及ハス又其和解  
ノ契約アルヲ申述ヘテ其義務ヲ免レント  
スルヲ得ス

二五二

第千五十四條 和解ノ契約ハ之ヲ結ビタル

者ノ間ニ於テハ更ニ上等裁判所ニ控訴スル  
ヲ能ハサル裁判言渡ト同一ノカアリトス  
和解ノ契約ハ權利ノ錯誤又ハ損害アルヲ以

大正官

大正官

テ之ニ取消スヲ得ス

第十五十五條 然氏人ヲ錯誤シタル時又ハ  
争ノ主意ヲ錯誤シタル時ハ其和解ノ契約ヲ  
取消スヲ得可シ

又詐偽暴行アル時モ亦其契約ヲ取消スヲ  
得可シ

第十五十六條 證書ナクシテ和解ノ契約ヲ  
為シタル時ハ後ニ其契約ヲ取消サント訴フ

ルヲ得可シ但シ双方ノ者其證書ノ有無ニ  
拘ラサル別段ノ契約アル時ハ格別ナリトス

第十五十七條 何事ニ限ラス雙方ノ者和解  
ノ契約ヲ為シタル時ハ其時ニ當リ知ルヲナ  
キ證書ヲ後ニ見出シタルト雖氏其和解ノ契  
約ヲ取消スノ原由ト為ス可カラス但シ一方  
ノ者ノ所為ニ因リ故サラニ其證書ヲ匿シ置  
キタル時ハ格別ナリトス

然其和解ノ契約ヲ為シタル後新クニ證書ヲ  
見出シ其證書ニ因リ一方ノ者其和解ノ目的  
タル事ニ管ス可キ權ナキコト分明トナリシ時  
ハ其和解ノ契約ヲ取消ス可シ

第五十八條 和解ノ契約ニ算計ノ錯誤アル時ハ之ヲ改ムルヲ得ヘシ

